

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年11月10日
【四半期会計期間】	第47期第2四半期（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）
【会社名】	株式会社ミロク情報サービス
【英訳名】	MIROKU JYOHU SERVICE CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 是枝 周樹
【本店の所在の場所】	東京都新宿区四谷四丁目29番地1
【電話番号】	(03)5361 6369（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 経営管理本部長 寺沢 慶志
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区四谷四丁目29番地1
【電話番号】	(03)5361 6369（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 経営管理本部長 寺沢 慶志
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第46期 第 2 四半期連結 累計期間	第47期 第 2 四半期連結 累計期間	第46期
会計期間	自2022年 4 月 1 日 至2022年 9 月30日	自2023年 4 月 1 日 至2023年 9 月30日	自2022年 4 月 1 日 至2023年 3 月31日
売上高 (百万円)	19,881	21,174	41,461
経常利益 (百万円)	2,827	2,863	5,839
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純利益 (百万円)	1,935	1,831	3,767
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,366	1,648	3,491
純資産額 (百万円)	22,652	25,100	24,775
総資産額 (百万円)	42,925	45,416	45,793
1 株当たり四半期 (当期) 純利 益 (円)	64.81	61.24	126.18
潜在株式調整後 1 株当たり四半 期 (当期) 純利益 (円)	56.16	53.11	109.33
自己資本比率 (%)	51.7	54.2	53.0
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	1,828	1,466	7,157
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	966	1,739	2,856
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	1,583	1,611	1,778
現金及び現金同等物の四半期末 (期末) 残高 (百万円)	15,927	17,287	19,171

回次	第46期 第 2 四半期連結 会計期間	第47期 第 2 四半期連結 会計期間
会計期間	自2022年 7 月 1 日 至2022年 9 月30日	自2023年 7 月 1 日 至2023年 9 月30日
1 株当たり四半期純利益 (円)	32.48	30.12

(注) 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第 2 四半期連結累計期間において、当社グループ (当社及び当社の関係会社) が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における国内経済は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが2023年5月には5類感染症に変更となり、社会経済活動の正常化が進み、景気は緩やかに回復しました。しかし、原材料や物価の高騰、さらに金融資本市場の変動等による経済活動への影響が懸念され、先行き不透明な状況で推移しました。

ソフトウェア業界及び情報サービス業界においては、企業における人手不足やテレワークをはじめとする働き方改革への対応、インボイス制度や改正電子帳簿保存法への対応、さらに業務プロセスのデジタル化の環境整備が進むなど、IT投資需要は高まっております。

当社グループは、このような経営環境の下、販売力や製品・サービス力の向上により既存顧客との関係維持、満足度向上を図るとともに、新規顧客の開拓による顧客基盤の拡大とこれらに伴うサービス収入の増大、収益基盤の強化に努めました。また、クラウドサービスの拡販に加え、オンプレミス製品の提供形態を、一括で売上が計上される売切り型から利用期間に応じて売上計上されるサブスクリプション型への移行を加速しており、クラウド・サブスク型ビジネスモデルへの転換に伴う更なる収益性の改善を目指しております。

販売面では、インボイス制度や改正電子帳簿保存法への対応など、お客様の関心の高い分野のセミナー・研修会の開催や各種イベントへの出展を行い、インボイス制度に対応した各種ERP製品やデジタルインボイス送受信クラウドサービス『MJS e-Invoice』、改正電子帳簿保存法対応のクラウドサービス『MJS e-ドキュメントCloud』の販売拡大に注力しました。また、デジタルマーケティングやオンライン商談ツールを活用しつつ、全国主要都市にある直接販売網の強みを活かし、地域に根差した営業・サポート活動を展開しました。併せて、2023年4月よりソリューション支社を1支社新設するとともに、お客様のDX化を適切かつ強力に支援するための人材育成、資格取得支援にも注力し、中堅・中小企業向けソリューションビジネス体制の更なる強化を図りつつ、積極的な営業活動を展開しております。

開発面では、全ERP製品において、インボイス制度に対応した機能追加を完了しました。また、他社製品とのAPI連携数を増やすなど、お客様ニーズに即した機能改良を継続して行いました。さらに、新規事業である統合型DXプラットフォーム事業の推進に向けた開発にも注力しております。

当社グループは、「中期経営計画 Vision2025」に掲げた「既存ERP事業の進化・ビジネスモデルの変革と新規事業によるイノベーション創出」を実現するための基本戦略、及び2022年5月に発表しました『サステナビリティ基本方針』に基づいて、継続的な企業価値の向上を目指します。

このような事業活動の結果、当第2四半期連結累計期間の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

財政状態

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は26,391百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,019百万円減少しました。これは主に現金及び預金が1,826百万円減少したことによるものであります。

固定資産は19,024百万円となり、前連結会計年度末に比べ645百万円増加しました。これは主に無形固定資産が698百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、45,416百万円となり、前連結会計年度末に比べ376百万円減少しました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は20,171百万円となり、前連結会計年度末に比べ697百万円減少しました。これは主に賞与引当金が473百万円減少したことによるものであります。

固定負債は144百万円となり、前連結会計年度末に比べ4百万円減少しました。これは主にリース債務が9百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、20,315百万円となり、前連結会計年度末に比べ702百万円減少しました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は25,100百万円となり、前連結会計年度末に比べ325百万円増加しました。これは主に当第2四半期連結累計期間における親会社株主に帰属する四半期純利益1,831百万円の計上や剰余金の配当1,343百万円の実施により、利益剰余金が433百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は54.2%（前連結会計年度末は53.0%）となりました。

経営成績

当第2四半期連結累計期間におきましては、会計事務所向け及び中小企業向け各種ERP製品の販売が好調に推移しました。各種ERP製品の販売は、サブスクリプション型での提供に徐々に移行しているためソフトウェア使用料収入が大きく伸長し、ストック型の安定的なサービス収入が増加しました。この結果、売上高は21,174百万円（前年同期比6.5%増）と増収となりました。利益面においては、人的資本経営戦略に基づき、先行投資となる新卒入社社員の積極採用（78名）やベースアップ、昇給による人件費の大幅な増加及び広告宣伝・販売促進費の増加、さらに新規事業である統合型DXプラットフォーム事業の推進に向けた開発投資、顧客獲得のための販売促進費の増加などにより、売上原価・販売費及び一般管理費が1,595百万円増加した結果、営業利益2,799百万円（前年同期比9.7%減）、経常利益2,863百万円（前年同期比1.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,831百万円（前年同期比5.3%減）と減益となりました。

当第2四半期連結累計期間の品目別の売上高は以下のとおりであります。

(システム導入契約売上高)

ハードウェア売上高は前年同期比17.4%増の2,168百万円、ソフトウェア売上高は前年同期比1.5%減の6,475百万円となりました。ユースウェア売上高は前年同期比10.7%増の3,086百万円となりました。

この結果、システム導入契約売上高の合計は前年同期比4.7%増の11,729百万円となりました。

「システム導入契約売上高」は、システム導入契約時の売上高の合計として、ハードウェア、ソフトウェア、ユースウェア（システム導入支援サービス等）の売上高から構成されております。

(サービス収入)

会計事務所向けの総合保守サービスであるTVS（トータル・バリューサービス）収入は前年同期比0.9%増の1,275百万円となりました。ソフト使用料収入は前年同期比39.1%増の2,541百万円となりました。企業向けのソフトウェア運用支援サービス収入は前年同期比2.7%増の2,915百万円となりました。ハードウェア・ネットワーク保守サービス収入は前年同期比3.2%増の777百万円、サプライ・オフィス用品は前年同期比15.3%減の245百万円となりました。

この結果、サービス収入の合計は前年同期比11.2%増の7,755百万円となりました。

「サービス収入」は、主に継続的な役務の対価となる安定的な収入として、ソフト保守やHW・NW保守サービス、ソフト使用料収入、サプライ・オフィス用品等の売上高から構成されています。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ1,883百万円減少し、17,287百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,466百万円の収入（前年同期は1,828百万円の収入）となりました。

これは主に税金等調整前四半期純利益2,856百万円、減価償却費1,267百万円がそれぞれキャッシュ・フローの増加要因となり、売上債権の増加873百万円、法人税等の支払992百万円がそれぞれキャッシュ・フローの減少要因となったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、1,739百万円の支出（前年同期は966百万円の支出）となりました。

これは主に関係会社株式の売却による収入407百万円がキャッシュ・フローの収入となり、無形固定資産の取得による支出1,942百万円がキャッシュ・フローの支出となったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、1,611百万円の支出（前年同期は1,583百万円の支出）となりました。

これは主に配当金の支払額1,343百万円がキャッシュ・フローの支出となったことによるものであります。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前連結会計年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定について重要な変更はありません。
また、新型コロナウイルスに関する仮定についても、重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、653百万円であります。
なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	135,000,000
計	135,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	34,806,286	34,806,286	東京証券取引所 プライム市場	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式であ り、単元株式数は、 100株であります。
計	34,806,286	34,806,286		

(注)「提出日現在発行数」欄には、2023年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日	-	34,806,286	-	3,198	-	3,013

(5) 【大株主の状況】

2023年 9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合(%)
株式会社エヌケーホールディングス	東京都新宿区新宿 1 丁目32- 4	10,171	34.0
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	東京都港区浜松町 2 丁目11番 3 号	1,913	6.4
OASIS JAPAN STRATEGIC FUND LTD. (常任代理人 シティバンク、エ ヌ・エイ東京支店)	MAPLES CORPORATE SERVICES LTD, PO BOX 309, UGLAND HOUSE SOUTH CHURCH STREET, GEORGE TOWN, GRAND CAYMAN KY 1 -1104, CAYMAN ISLANDS (東京都新宿区新宿 6 丁目27番30号)	1,050	3.5
是枝 伸彦	東京都府中市	1,039	3.5
株式会社エヌ・ティ・ティピー・ シーコミュニケーションズ	東京都港区西新橋 2 丁目14- 1	1,030	3.4
株式会社日本カストディ銀行(信託 口)	東京都中央区晴海 1 丁目 8 -12	966	3.2
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE FIDELITY FUNDS (常任代理人 香港上海銀行東京支 店 カストディ業務部)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋 3 丁目11- 1)	581	1.9
ミロク情報サ - ビス社員持株会	東京都新宿区四谷 4 丁目29- 1	476	1.6
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町 1 丁目13- 1	371	1.2
光通信株式会社	東京都豊島区西池袋 1 丁目 4 -10	370	1.2
計	-	17,970	60.1

- (注) 1. 上記日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式のうち、信託業務に係る株式数は、1,913千株であります。
2. 上記株式会社日本カストディ銀行(信託口)の所有株式のうち、信託業務に係る株式数は、966千株であります。
3. 2021年 3月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、野村證券株式会社及びその共同保有者が2021年 3月15日現在でそれぞれ以下のとおり株式を保有している旨が記載されているものの、当社として当第2 四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記大株主の状況は、株主名簿に基づいて記載しております。

氏名又は名称	住所	保有株券等 の数(千株)	株券等保有 割合(%)
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目13番 1 号	3,033	8.02
ノムラ インターナショナル ピー エルシー(NOMURA INTE RNATIONAL PLC)	1 Angel Lane, London EC4R 3AB, United Kingdom	18	0.05
野村アセットマネジメント株式会社	東京都江東区豊洲二丁目 2 番 1 号	658	1.89

(6) 【議決権の状況】
【発行済株式】

2023年 9 月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 4,886,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 29,905,400	299,054	-
単元未満株式	普通株式 13,986	-	-
発行済株式総数	34,806,286	-	-
総株主の議決権	-	299,054	-

(注) 1 . 「完全議決権株式(その他)」欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,400株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数14個が含まれております。

2 . 「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式80株及び当社所有の自己株式80株が含まれております。

【自己株式等】

2023年 9 月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
株式会社ミロク情報 サービス	東京都新宿区四谷 四丁目29番地 1	4,886,900	-	4,886,900	14.0
計		4,886,900	-	4,886,900	14.0

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 退任役員

役職名	氏名	退任年月日
取締役 税経システム研究所副所長	岩間 崇浩	2023年 8 月31日 (一身上の都合による辞任)

(2) 異動後の役員の男女別人数及び女性の比率

男性13名 女性1名 (役員のうち女性の比率7.1%)

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,846	18,020
受取手形、売掛金及び契約資産	4,289	5,163
商品	1,129	1,109
仕掛品	489	719
貯蔵品	34	28
その他	1,627	1,358
貸倒引当金	6	8
流動資産合計	27,410	26,391
固定資産		
有形固定資産		
土地	2,888	2,888
その他（純額）	1,637	1,679
有形固定資産合計	4,526	4,568
無形固定資産		
のれん	252	207
ソフトウェア	3,787	2,956
ソフトウェア仮勘定	3,140	4,714
その他	6	5
無形固定資産合計	7,185	7,884
投資その他の資産		
投資有価証券	3,899	3,650
その他	2,915	3,070
貸倒引当金	149	149
投資その他の資産合計	6,666	6,571
固定資産合計	18,378	19,024
繰延資産	5	1
資産合計	45,793	45,416
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,318	1,303
短期借入金	807	772
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	11,007	11,001
1年内返済予定の長期借入金	220	-
未払法人税等	1,098	1,212
賞与引当金	1,558	1,085
その他	4,859	4,795
流動負債合計	20,868	20,171
固定負債		
役員退職慰労引当金	65	69
退職給付に係る負債	13	13
資産除去債務	21	21
その他	49	40
固定負債合計	149	144
負債合計	21,018	20,315

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年 3 月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (2023年 9 月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,198	3,198
資本剰余金	2,931	2,931
利益剰余金	23,030	23,464
自己株式	5,990	5,915
株主資本合計	23,169	23,677
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,109	942
為替換算調整勘定	0	-
その他の包括利益累計額合計	1,109	942
非支配株主持分	496	480
純資産合計	24,775	25,100
負債純資産合計	45,793	45,416

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 9 月30日)
売上高	19,881	21,174
売上原価	7,382	8,243
売上総利益	12,498	12,931
販売費及び一般管理費	¹ 9,396	¹ 10,131
営業利益	3,102	2,799
営業外収益		
受取利息	6	7
受取配当金	23	8
保険配当金	23	33
その他	30	29
営業外収益合計	84	79
営業外費用		
支払利息	4	3
持分法による投資損失	² 343	3
社債発行費償却	3	3
支払手数料	5	3
その他	2	1
営業外費用合計	358	15
経常利益	2,827	2,863
特別利益		
投資有価証券売却益	383	-
特別利益合計	383	-
特別損失		
固定資産除却損	23	4
投資有価証券評価損	-	1
特別損失合計	23	6
税金等調整前四半期純利益	3,186	2,856
法人税等	1,243	1,040
四半期純利益	1,943	1,815
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失 ()	8	15
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,935	1,831

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	1,943	1,815
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	577	167
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	576	166
四半期包括利益	1,366	1,648
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,358	1,664
非支配株主に係る四半期包括利益	8	15

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 9 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,186	2,856
減価償却費	1,264	1,267
のれん償却額	124	44
貸倒引当金の増減額 (は減少)	2	2
賞与引当金の増減額 (は減少)	249	473
役員退職慰労引当金の増減額 (は減少)	2	4
受取利息及び受取配当金	29	15
支払利息	4	3
持分法による投資損益 (は益)	343	3
投資有価証券売却損益 (は益)	383	-
投資有価証券評価損益 (は益)	-	1
固定資産除売却損益 (は益)	23	4
売上債権の増減額 (は増加)	707	873
棚卸資産の増減額 (は増加)	395	204
仕入債務の増減額 (は減少)	156	15
その他	214	146
小計	3,128	2,459
法人税等の支払額	1,300	992
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,828	1,466
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	100	100
定期預金の払戻による収入	100	100
有形固定資産の取得による支出	127	185
無形固定資産の取得による支出	1,372	1,942
投資有価証券の売却による収入	584	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	55	-
関係会社株式の売却による収入	-	2 407
貸付けによる支出	-	0
利息及び配当金の受取額	23	9
その他	19	28
投資活動によるキャッシュ・フロー	966	1,739
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (は減少)	5	34
長期借入金の返済による支出	220	220
配当金の支払額	1,342	1,343
利息の支払額	5	3
その他	9	9
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,583	1,611
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	721	1,883
現金及び現金同等物の期首残高	16,648	19,171
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 15,927	1 17,287

【注記事項】

（四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（四半期連結損益計算書関係）

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
販売促進費	659百万円	820百万円
貸倒引当金繰入額	3	3
給料手当	3,713	4,057
賞与引当金繰入額	804	819
退職給付費用	180	192

2 持分法による投資損失

前第2四半期連結累計期間において、一部の持分法適用関連会社に係るのれん相当額について、取得時の事業計画において想定していた超過収益力が見込まれなくなったことから、「持分法会計に関する実務指針」（日本公認会計士協会 会計制度委員会報告第9号）第9項なお書きの規定に基づき、当該のれん相当額の未償却残高303百万円を一時償却しております。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金勘定	16,509百万円	18,020百万円
店舗現金業務管理サービスにかかる現金	345	495
預入期間が3か月を超える定期預金	236	237
現金及び現金同等物	15,927	17,287

2 関係会社株式の売却による収入

当第2四半期連結累計期間において、2022年3月期の株式売却に係る未収入金407百万円が回収されております。

（株主資本等関係）

前第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,343	45	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

（注）1株当たり配当額には、特別配当5円を含んでおります。

当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,343	45	2023年3月31日	2023年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、ソフトウェア関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
顧客との契約から生じる収益		
システム導入契約売上		
ハードウェア	1,846百万円	2,168百万円
ソフトウェア	6,573	6,475
ユースウェア	2,787	3,086
計	11,207	11,729
サービス収入		
トータル・バリューサービス (TVS)	1,264	1,275
ソフト使用料	1,827	2,541
ソフトウェア運用支援サービス	2,839	2,915
ハードウェア・ネットワーク保守サービス	753	777
サプライ・オフィス用品	289	245
計	6,974	7,755
その他	1,699	1,689
顧客との契約から生じる収益合計	19,881	21,174
その他の収益	-	-
外部顧客への売上高	19,881	21,174

(注) 1. 「トータル・バリューサービス (TVS)」は、会計事務所向けの総合保守サービスです。
2. 「ソフトウェア運用支援サービス」は、企業向けの総合保守サービスです。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 9 月30日)
(1) 1 株当たり四半期純利益	64円81銭	61円24銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	1,935	1,831
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益 (百万円)	1,935	1,831
普通株式の期中平均株式数 (千株)	29,858	29,910
(2) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益	56円16銭	53円11銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円)	4	3
(うち受取利息 (税額相当額控除後) (百万円))	(3)	(3)
(うち連結子会社の潜在株式による調整額 (百万円))	(0)	(-)
普通株式増加数 (千株)	4,522	4,508
(うち新株予約権 (千株))	(883)	(836)
(うち転換社債型新株予約権付社債 (千株))	(3,639)	(3,672)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当 たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式 で、前連結会計年度末から重要な変動があったもの の概要		

(重要な後発事象)

(多額な資金の借入)

当社は、2023年10月31日開催の取締役会において、資金の借入を行うことについて決議いたしました。

資金の借入の理由

2023年12月に償還期限を迎える2023年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の償還資金に充当する予定です。なお、借入金額の総額は、2023年10月31日開催の取締役会において決議された60億円と2023年3月20日に開催された取締役会において決議された25億円の合計85億円となります。

資金の借入の概要

短期借入金

(1) 借入先	株式会社みずほ銀行 株式会社三井住友銀行 株式会社りそな銀行 株式会社きらぼし銀行
(2) 借入金額	45億円
(3) 借入金利	基準金利 + スプレッド、固定金利
(4) 借入日	2023年11月30日(予定)
(5) 借入期間	1年
(6) 返済方法	期日一括返済
(7) 担保等の有無	無担保・無保証

長期借入金

(1) 借入先	株式会社みずほ銀行 株式会社三井住友銀行 株式会社りそな銀行 株式会社きらぼし銀行
(2) 借入金額	40億円
(3) 借入金利	固定金利
(4) 借入日	2023年11月30日(予定)
(5) 借入期間	5年
(6) 返済方法	元金均等返済
(7) 担保等の有無	無担保・無保証

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月9日

株式会社ミロク情報サービス

取締役会 御中

三 優 監 査 法 人

東京事務所

指 定 社 員 公 認 会 計 士 山 本 公 太
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公 認 会 計 士 玉 井 信 彦
業 務 執 行 社 員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ミロク情報サービスの2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ミロク情報サービス及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。